

最新のテクノロジーやデジタル技術等を活用して、 障害のある方のスポーツへのアクセス改善につなげたい！

課題



当課では、障害のある人が「する・みる・支える」といったスポーツ活動に参加できるよう、機会の創出・拡大に取り組んでいる。

しかし、障害のある人のスポーツ参加への障壁として、例えば以下の課題がある。

【スポーツ・運動を実施しない理由】

「活動したいと思わない」「身体的にできない」「金銭的な余裕がない」「介助者がいない、一緒にできる仲間がない」「身近なところに場所がない、移動手段がない」等

⇒ 最新技術を用いることで、無関心層へのアプローチや身近な場所（自宅など）からスポーツ活動に参加できるような事業展開を行いたい。

背景

- 当課では、上記の課題解決の方策として、以下の3事業を実施している。
 - ・ パラスポーツリモート参加事業：分身ロボットを用いて福祉施設とスポーツ会場を結び、施設利用者に「する・みる・支える」の機会を提供。また施設同士をつないだ交流会（リモートのボッチャ大会）を実施
 - ・ eパラスポーツ事業：障害ある方でも操作できるように加工されたコントローラーを用いて、その人に合わせた環境でeスポーツを楽しめる機会を提供
 - ・ バーチャルスポーツ事業：実際に身体を動かして操作するコントローラーを用いて行う「バーチャルスポーツ」を紹介する運動メニュー集、解説動画を作成し普及を図る事業
- 都の障害者を対象とした調査で「スポーツや運動への取組状況」を質問した結果は、「関心はない」が32.4%で最も多く、「行いたいができない」（22.7%）も高水準である。

現場からの コメント



- 新たなコンテンツの開発（アプリやWebページなど）を行う場合、利用者には無償での提供が前提。
- 障害者個人が使用するデバイス・用具の開発は想定していない。（普及に多大な費用を要するため）
- スポーツ参加のきっかけを創出するだけでなく、継続につながる提案も期待している。

現場情報

※現場への直接のご連絡は行わないでください

生活文化スポーツ部門
(スポーツ総合推進部パラスポーツ課)

障害のある人のスポーツ実施率の向上、
都民のパラスポーツの関心率の向上など、
パラスポーツの振興に取り組んでいる。